2027年３月期　中間期

決算説明資料

株式会社ディー・エル・イー

2026年11月13日

連結損益計算書

- 連結子会社の売却等により売上高は**前年同期比42.4%減**
- 売上総利益は**35.8%減**、売上総利益率は**37.9%→42.2%(4.3pt増)へ改善**
- 販売費及び一般管理費は**41.5%減**、営業損失は**337百万円→182百万円に縮小**
- 投資有価証券売却益**94百万円**を計上

項目（単位：千円）	2026年3月期 中間期	2027年3月期 中間期	増減額	前年同期比
売上高	691,633	398,410	▲293,223	▲42.4%
売上原価	429,681	230,284	▲199,397	▲46.4%
売上総利益	261,951	168,126	▲93,825	▲35.8%
売上総利益率	37.9%	42.2%		+4.3pt
販売費及び一般管理費	599,855	350,676	▲249,179	▲41.5%
営業損失（▲）	▲337,903	▲182,550	+155,353	赤字縮小
経常損失（▲）	▲371,674	▲182,048	+189,626	赤字縮小
親会社株主に帰属する中間純損失	▲41,108	▲90,150	▲49,042	赤字拡大

連結貸借対照表

DLE

- **資産項目：**保有株式の売却等により**現金及び預金は844百万円へ増加**
- **負債・純資産項目：純資産1,201百万円、自己資本比率71.4%**（前期末比0.9pt低下）

（単位：千円）

資産	26年3月期 期末	**27年3月期 中間期**	増減額	負債・純資産	26年3月期 期末	**27年3月期 中間期**	増減額
流動資産	1,208,433	**1,099,686**	▲108,747	**流動負債**	144,704	**135,120**	▲9,584
現金及び預金	818,328	**844,835**	+26,507	**固定負債**	353,922	**335,747**	▲18,175
売掛金及び契約資産	272,983	**168,897**	▲104,086	**負債合計**	498,626	**470,867**	▲27,759
仕掛品	45,228	**52,952**	+7,724	**株主資本**	892,027	**801,822**	▲90,205
固定資産	621,047	**572,814**	▲48,233	利益剰余金	▲1,812,725	**▲1,902,876**	▲90,151
投資有価証券	578,755	**520,674**	▲58,081	**その他の包括利益累計額**	431,256	**392,354**	▲38,902
出資金・敷金等	37,705	**48,745**	+11,040	**純資産合計**	1,330,854	**1,201,632**	▲129,222
資産合計	1,829,480	**1,672,500**	▲156,980	**負債純資産合計**	1,829,480	**1,672,500**	▲156,980
				自己資本比率	72.3%	**71.4%**	▲0.9pt

2027年3月期

業績予想修正

2027年3月期 通期業績予想の修正

前回予想から売上高を45.4%減額、営業利益は赤字見込みへ

オルタナティブ・アニメ、AI関連事業で、当中間期の受注獲得が当初計画から遅れ、業績が事業計画を下回って推移
事業計画、予算策定について見直しを入れ、案件ごとの受注状況、売上計上時期、実現可能性を精査し、通期業績予想を修正した

（単位：百万円、1株当たり当期純利益は円）

項目	前回発表予想	今回修正予想	増減額
売上高	1,740	**950**	▲790
営業利益	100	**▲260**	▲360
経常利益	100	**▲260**	▲360
親会社株主に帰属する当期純利益	150	**▲120**	▲270
1株当たり当期純利益	3.45	**▲2.76**	▲6.21

前回発表予想：2026年5月14日公表

2027年3月期 中間期カテゴリ別売上

DLE

本業に集中した結果、既存継続事業の売上は拡大している

前年中間期と当中間期の比較（単位：千円）

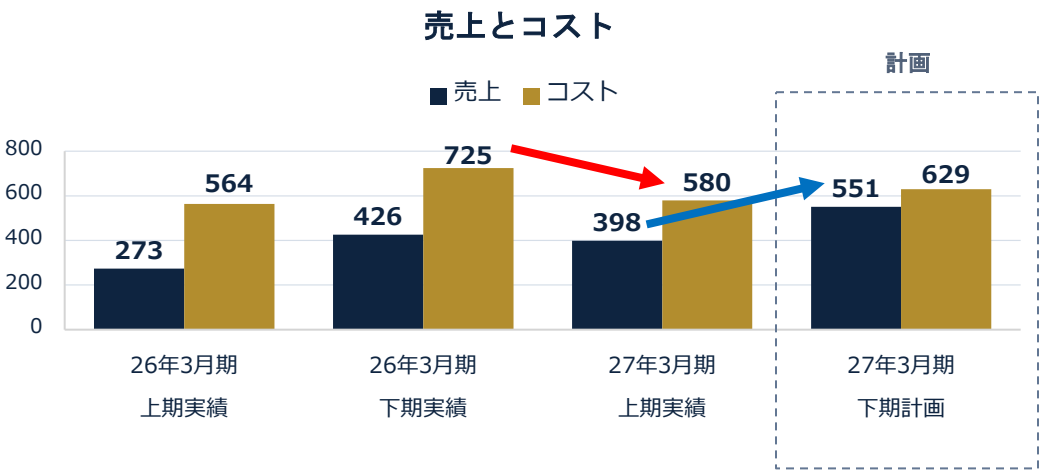
区分	売上カテゴリ	前年中間期	当中間期	変化・状況
既存継続	IP・コンテンツ関連	**135,684**	**174,507**	**28.6%増**
既存継続	セールスプロモーション関連	**120,664**	**200,292**	**66.0%増**
売却済み	ゲーム・アプリ関連	160,761	-	売上計上なし
売却済み	スポーツ・ブランディング関連	125,962	-	売上計上なし
売却済み	EC・クラファン関連	130,617	-	売上計上なし
既存継続(*)	K-POP関連	16,748	20,980	前期事業収益が今期分配
既存継続	その他	1,194	2,629	—
合計	総売上高	691,633	398,410	42.4%減

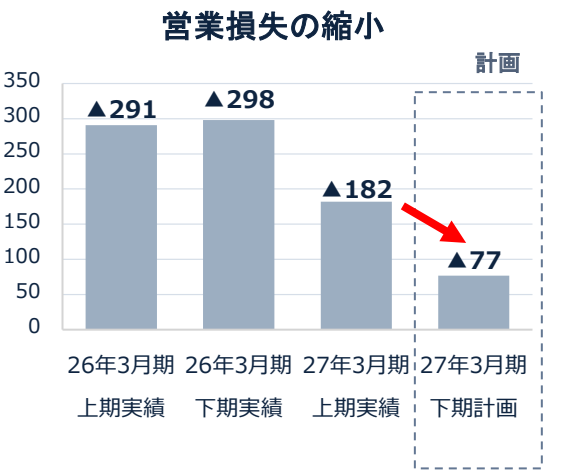
(*) K-POP関連について前期中に売却・撤退済みであるが、前期事業収益が今期に確定し分配されたものがあり売上計上があるため、集計上は既存継続扱いとしている。

DLE

既存継続事業の売上、コスト推移

単位：百万円





売上・コストの変化

26年下期から27年上期

コスト145百万円減（約20%減）

27年上期から下期計画

売上153百万円増（約38%増）

営業損失は105百万円改善

※百万円未満切捨て。

事業ビジョン

事業実績

DLEが目指す姿：「IP総合プロデュース会社」

DLE

IPを生み、育て、世界へ

事業	IP開発・発掘	制作スタジオ	IP育成	製作委員会	エンタメsolution
強み	● DLE独特のクリエイティブでヒットIPを創出 ● レジェンド級のIP・新鋭クリエイターのIPもDLEがプロデュース	● 3種のスタジオで多様な表現を速く・安く・高品質に ● 低コストで0→1の挑戦を増やす	● 鷹の爪・パンパカパンツ・そろ谷のアニメっちを生んだDLEメソッド ● DLEのヒット経験者が推進	● 今年度から製作委員会の組成を活性化 ● 認知機会とヒットの可能性を拡大	● 営業部隊の継続アプローチ ● 地域創生エンタメの実績を活用
主な取り組み	● オリジナルIP開発（キャラ・ショートアニメ・企画等） ● 国内・海外で評価される漫画・アニメIP開発 ● SNSの人気クリエイターを発掘・確保 ● 企業・自治体・地域との共創で新規IPを開発	● AI（OBETA AI STUDIO）・Flash・オルタナティブで多様な制作 ● 社内監督が迅速・柔軟に対応 ● 豊富な仕事量で社員クリエイターを自動育成	● スモールプラネットと早期商品化・試験販売 ● SNS・YouTubeでファン形成。 ● 視聴・購買・SNS反応に迅速・柔軟に対応 ● 可能性を追求した粘着性のある仕掛けの継続	● 放送・商品化・漫画化・広告等のパートナーを強化 ● 地方局・BS・SNS・漫画プラットフォームと連携 ● 外部資本も活用して、挑戦機会を増やす	● 企業キャラの開発・運用、広告・販促動画 ● 地方創生・観光IP、教育・社会課題へ展開 ● スポーツ・自治体・地域とのコラボ

テクノロジーとクリエイティブを駆使した
「IP総合プロデュース会社」

DLEが目指す姿：次の主力IPへ展開

DLE

鷹の爪・パンパカパンツ・そろ谷のアニメっちで培った経験を、次の主力IPへ

ホップ

IP×テクノロジー×クリエイティブで、IPを発掘、開発する

直近の実績
- 小３アシベ QQゴマちゃん
- 野原ひろし 昼メシの流儀

方針：DLEが、いち早く作品化

ステップ

企業・地域と結びIPを育成する

直近の実績
- SBS：しゃべくりAI
- さんいん中央テレビ：古墳ドクター コフィーER

方針：企業・地域とのIP共創
SNS・商品化で反応を捉える

ジャンプ

育てたIPを国内外へ収益機会を拡大する

直近の実績
- 野原ひろし 昼メシの流儀のDLEオンラインくじ
- パンパカパンツの海外配信スタート

方針：放送・配信・商品化のパートナーと収益機会を拡大

制作を支える3種のスタジオ

Flash ／ オルタナティブ・アニメ ／ AI（OBETA AI STUDIO）

DLE

新規作品と継続シリーズの制作に加え、制作作品の商品化を展開

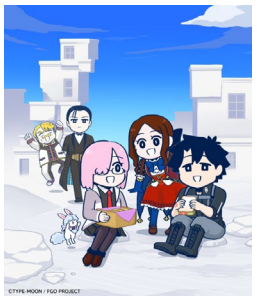
オルタナティブ・アニメ制作



小３アシベ QQゴマちゃん

2026年4月より放送開始
短納期・価格競争力を特徴とする
オルタナティブ・アニメで制作

ショートアニメ制作実績



Fate/Grand Order
藤丸立香はわからない

Season4を引き続き制作
8月から配信開始
既存シリーズの制作実績を拡大

制作作品の商品化



野原ひろし 昼メシの流儀

自社のDLEオンラインくじで
オリジナルグッズを展開
映像制作に加えた収益機会を
創出

DLE

AI映像制作の実績と、サービス収入の具体化

放送・公共施設向け制作
OBETA AI STUDIO



テレビ神奈川「カタマリ」のOP映像に
制作協力



牧之原市の田沼意次侯顕彰展で
使うアニメーション映像を制作

自社IPのAI展開
AI蛙男商会



6月に始動。生成AIによる
自社IPの新たな表現を推進

もちもちパンパカパンツ



8月からPrime Videoで
先行配信。海外配信もスタート

AIサービスの販売

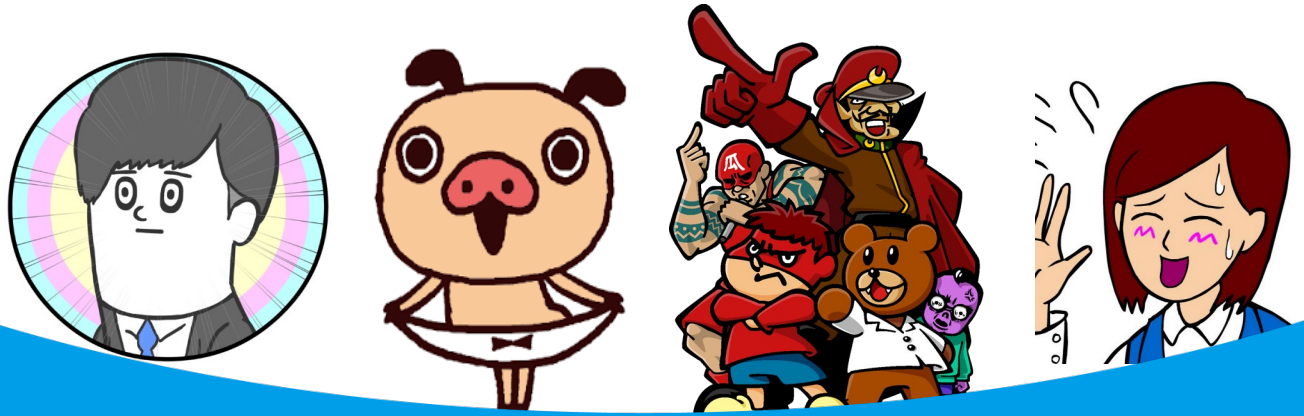
次世代広報AIツール
「しゃべくりAI」
静岡新聞社・静岡放送、SBSプロモーション
静岡県内 独占販売パートナーシップ契約締結

しゃべくりAI × SBS 静岡新聞 SBSプロモーション

しゃべくりAI

4月、キャビアを通じSBSと
静岡県内の独占販売提携を締結
企業・自治体等への導入を支援
初期導入・月額利用のサービス
収入を計上

DLE



【見通しに関する注意事項】

当資料に記載されている内容は、現在入手している情報による判断および仮定に基づいており、
記載された将来の計画数値、戦略、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。